

合唱祭に向けて

今週、「けやき中を誇りに」という教材を使って、「よりよい学校生活、集団生活の充実」をテーマにした、道徳の授業を行いました。

けやき中の合唱祭は伝統があり、たくさんの保護者や地域の方も、毎年楽しみにしています。中学1年生の主人公は、そんな合唱祭の実行委員をしています。そのため、率先して練習に臨んでいるのですが、他の生徒はなかなか真剣に参加してくれません。どうしたらいいのか悩んでいたある日、担任の先生の提案で、3年生と一緒に練習をすることになります。そして、主人公のクラスの生徒たちは、3年生の歌声に圧倒されます。

その日以来、みんなの意識が徐々に変わり、主人公のクラスは学年で最優秀賞を受賞します。担任の先生から、「よく頑張ったな。君たちはけやき中の誇りだ。」と言われて主人公は、喜びと共に大切な何かを得たように感じます。以上が教材のあらすじです。

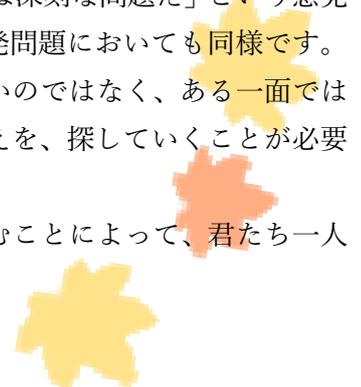
なぜクラスの生徒の意識が変わったのでしょうか。そのきっかけは、3年生の歌声を聞いたことにあったと思います。真剣に練習に臨む3年生を見て、同じ目標に向かって一人一人が全力で取り組む、それが人に大きな感動を与えることに、きっと気づいたのでしょう。そして、各自が徐々に真剣に取り組むようになった結果、今度は自分たちも大きな感動を得られるようになりました。

このように学級や学年において、各自が役割を果たすようになると、お互いの間に信頼が生まれ、人間関係が良好になっていきます。それが、それぞれの学校生活を充実させていきます。最近読んだドイツの哲学者のヘーゲルの著書、「精神現象学」の解説書には、以下のようなことが書かれていました。

完全には分かり合えない他者と、共に生きていくためには何が必要か、自分や相手の自由や価値観を押しつぶすことなく、社会の共同性や普遍的な知や、ルールを作っていくことは可能なのかについて、ヘーゲルは真剣に考えます。そもそも、人間が一人で生きていくことは不可能です。人とのつながりを断てば、社会や他者に認められることもないし、自分の能力を開花させることもできません。人はそれぞれ、自分の考えが正しいと思っています。だから最初は自分の考えに固執します。ところが途中でその考えが一面的であり、そのままでは他者とうまくやっけていけないことに気づきます。そして、もっと別の見方をする必要性を感じ、苦しみながら自分の考えを成長させていきます。

価値判断がぶつかることは、社会においてもよくあります。例えば、「地球温暖化は深刻な問題だ」という意見に対して、「温暖化よりも経済成長の方が重要だ」という意見もあります。これは原発問題においても同様です。このように、AとBの2つの価値が対立することがあります。そのどちらかが正しいのではなく、ある一面ではどちらも正しく、どちらも間違っています。その時、両者を統合した全く新しい考えを、探していくことが必要です。

このように集団での生活が、個々を成長させていきます。合唱祭に向けて取り組むことによって、君たち一人一人が、さらに成長してくれることを願っています。



来週の予定

9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)
スポーツの日	・生徒会朝礼(任命式認証式) 変則 45分授業	・文化祭りハーサル		・文化祭前日準備

各部活動秋季総体の成績

サッカー：準優勝	
野球：区準優勝、都大会出場	バレー：区準優勝 区3位ブロック大会出場
卓球：個人戦 都大会出場	バスケ女子：シード権大会ベスト4 区ベスト8